

# ふるさと 通信員だより

vol.198

このコーナーでは、ふるさと通信員が取材した身近な地域の話題を紹介しします。なお、町では通信員を募集しています(活動はボランティアでお願いしています)。広報活動に興味のある人は、役場広報広聴課広報係(内線216)にご連絡ください。



音更町中土幌神社氏子(中井紀雄総代表)が、昨年暮れに豊田農業機械整備センターで、恒例のしめ縄づくりを行いました。

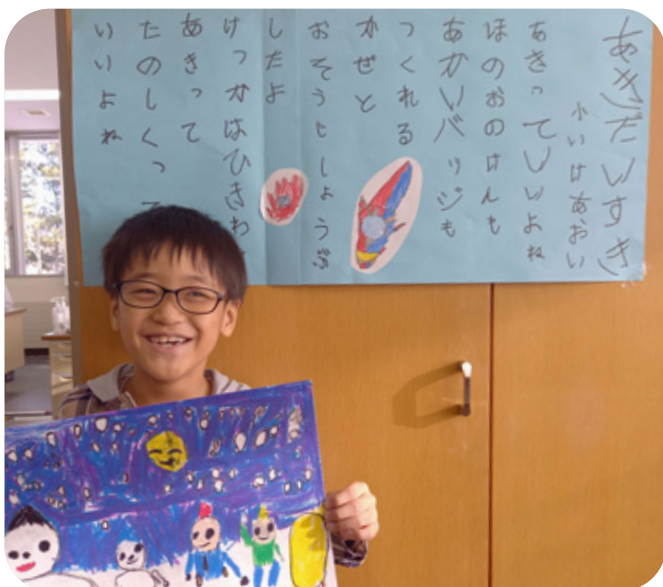
材料のスゲ草は、昨年7月に100㎡ほどを青刈りし、乾燥させて保存したものです。スゲを揃え、しめ縄を3本それぞれ堅くより上げ、さらにその3本をねじり合わせます。このときのねじり方は左巻きです。

仕上げに飾りの「しめの子」3個を取り付けると長さ8尺、中心の直径27センチの大しめ縄が完成。100年以上続く同神社伝統のしめ縄づくり。「新型コロナウイルス感染症が早く収束しますように」と願いを込めて奉納しました。



たかだ てつこ  
高田徹子 通信員

しめ縄に  
願いを込め奉納



南中音更小学校(水口一校長・児童数8人)の小池蒼唯君(1年)は身近な出来事を題材に詩を書き、菓子店の詩の募集に応募しています。小池君はこの応募で年間複数回の入選を果たす実力を持っており、入選した作品はさまざまところで掲載されています。また、絵を描くことも大変得意で、1年生とは思えない精密でありながら大胆かつ色鮮やかな描き方に目を引かれます。

小池君の好きな授業は図工や道徳、好きな給食はミートスパゲティやカレーだそうです。

そんな小池君は「大きくなったら強くなつて、酪農と畑作をしている父ちゃんのお手伝いをしたいです」と笑顔で話をしてくれました。



いしだ ひさよ  
石田尚世 通信員

才能あふれる  
1年生